《技術報告》

SUNY4001 (アデノシン) 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィの虚血診断能および安全性

——臨床第 III 相試験——

山崎　純一*[1,†]　西村　恒彦*[2]　西村　重敬*[3]　梶谷　定志*[4]
児玉　和久*[5]　加藤　和三*[6,‡]

要旨　十分に運動負荷をかけられない労作性狭心症および労作性狭心症が疑われる患者 207 例を対象として，SUNY4001 (アデノシン) 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィの虚血診断能および安全性を検討した．投与方法は 120 μg/kg/min 6 分間持続静脈内投与で，投与開始 3 分後に ^{201}Tl を投与した．初期像および後期像を撮像した．AHA 基準 90% 狭窄以上を有意狭窄と定義して求めた虚血診断能は，感度 87.1% (108/124) および特異度 46.0% (29/63) であった．負荷に伴う主な症状は，胸痛および胸部不快感 30.4% (63/207)，熱感および潮紅 22.2% (46/207)，血圧低下 17.4% (36/207) 等であり，全体の副作用発現率は 66.7% (138/207) であったものの，発現した症状のほとんどは軽度〜中等度であり，投与終了後速やかに消失した．

以上より，十分に運動負荷をかけられない患者に ^{201}Tl 心筋シンチグラフィを施行する場合，本剤による薬剤負荷は有用な方法と考えられた．

(核医学 **41**: 133–142, 2004)